

鈴鹿市民の コミバスをよくする会ニュース

(第27号・2019年2月発行)

発行:(略称)コミバスをよくする会

事務局:辻井良和 方

〒510-0234 鈴鹿市江島本町31-36

電話 059-386-0529 FAX 059-386-0646

末松市長さんと2度目の懇談会

市長は選挙の公約に 入れたいと意欲的

無料で鈴鹿市の経営でと、会から要請

鈴鹿市民のコミバスよくする会は、この1月16日、末松則子市長さんと2度目の懇談が出来ました。

事前に私たちの計画の内容と、無料でないと自由な計画や設計が出来ないことや、無料の方が一人当たりの費用が大幅に安くなり、費用対行政効果の割合が更に広がることをお知らせしておきました。

末松市長さんは、席に着くなり「約束の1時間と言わず、多少長くなっても良いですよ」と前置きされ、私たちの要請に添って、幾つかの質問をされました。運行して予想通り利用者はあるだろうか。無料と打ち出しながら利用券を発行してお金をもらうと有料とならないだろうか。広い市域で一挙に始めずに、どこかで試運転すると言うことはどうだろうか。玉城町のオンデマンドバスはうまく行っていると言うが、一度自分でも現地を見てみたい・・・などなど。私たちの言うことの手先へと話が進み、1時間の約束を15分もオーバーする熱心さで懇談しました。また市長さんは、「地域懇談会へでると地域

交通を何とかして欲しいという声が一番多いようだから、何とかしたいと思っている」と積極的に問題をとらえておられました。

話しの中では、試運転するとすればどの辺りかという質問もされ、私たちの方からは、早くから住民の集まりが熱望している石薬師地域、白子地域、昔からバス路線がない一ノ宮地域などはどうですかと、意見を出しておきました。

懇談のあとで私の方からは、この計画の要としての、地域巡回のオンデマンドバスと、神戸、平田、白子、と中央病院を回る大循環バスの両方の全体計画を立ててから、地域巡回のオンデマンドバス試運行をしてほしいと手紙で念押しをしておきました。懇談の中で感じたことは、末松市長さんが何とかしたいと考えておられるときに、私たちも実施の上で困難な点を解決して、協力して実施にこぎ着けられるように、市民の声を一層多く集める必要があると感じました。(辻井良和)



「コンビニニクル方式」で行おうとしていること。民間バス会社には請け負わずに、鈴鹿市で運営する方が経済的であることなどを報告しました。★このバスの分科会は、昨年比べ3倍の参加があり、全国的に免許証返上運動以来おおきな問題になりつつあり、各地でいろいろな検討が始まっていることの反映がありました。★大阪府の高槻市や、群馬県の高崎市からの参加者から、鈴鹿市の計画について素晴らしい計画で、実施計画もしっかりしていると参考資料の請求がありました。★来年のこの分科会では、鈴鹿市の実績を報告したものだと思います。

発車オーライ

★少しさかのぼりますが、昨年11月25日・26日、熱海市で第32回

日本高齢者大会という、高齢期の問題を話し合う催しがあり、三重県代表団として参加しました。その2日目にテーマ別の分科会が催され、「地域の足をどう確保するか」交通権の保障をめざして」という分科会に出ました。★その分科会には、鈴鹿市の私たちのシンポジウムにおいて下さった、可児紀夫先生がチューターを務めておられ、ご挨拶をして、私は鈴鹿の無料のオンデマンドバスの提案の内容を報告しました。三重県玉城町のオンデマンドバスが、高齢者を始め子育て中のお母さんや健康教室や町内のサークル参加者にとっても喜ばれていること。無料だからお金の心配なくどこへでも行けて、世間が広がり健康も進んでみな喜んでいることを話しました。★その上で、鈴鹿市では市民の声を集めて「無料のオンデマンドバス」と「無料の大循環バス」の組み合わせで、広い市域をくまなくサービスする計画を、東大大学院の

よかった！末松市長との懇談

去る1月16日、「コミバスをよくする会」の代表は、高齢者の生活交通の問題について末松市長と懇談をおこないました。約1年前にも同様の懇談の場をもったわけですが、今回は一步も二歩も踏み込んだ中身のある回答が得られた、というのが参加されたみなさんの共通の感想ではないでしょうか。

オンデマンドバスという私たちの提案に対しても市長がいくつも質問をされていましたが、この提案が高齢者の要望や鈴鹿市の地理的な実態、さらに財政面も考慮したきめ細かい提案だからこそ多くの点で市長の共感と関心をもってもらうことができたのだと思います。オンデマンドがすでに県内の玉城町で実践され成功をおさめていることも追い風になっていると思いますが、市長が「玉城町に行って聞いてみたいと思います」とおっしゃった時には心の中で「おおっすごい」と叫んでしまいました。まだまだ、実現までには越えなければならないハードルがいくつもあることだと思いますが、この運動を続け

てきてよかったと思える一日でした。年齢を重ねても安心して外出できる社会の実現にむけて、これからも頑張っていきたいと思います。(谷口 茂)

幸せな気持ちになった 市長懇談



辻井会長より、いつでも誰でもどこへでも、すべての市民が利用できる生活バスの主旨説明がありました。

末松市長からもいくつかの質問があり、成功した玉城町の元気バスを見に行き、その実態をしっかり把握したいというお話がありました。また、一部の地域で試行するという話も出たり・・・と、かなり前向きな意見が出されました。

市長懇談会を終えて、明るい光が差し込んだような気がして、私自身幸せな気持ちになりました。

どうかこの思いを裏切らないでほしいです。市民の1人として、一日も早い実現を望みます。

(田中美代子)

刈谷市の無料バスを視察して

コミバスをよくする会事務局4人で、1月19日に愛知県刈谷市で運行している「公共施設連絡バス」のお話をうかがいに市役所を訪れました。

13時からの視察だったので、市役所内の食堂で昼食をとったのですが、食堂の場所がとても広くて、たくさんの方が利用していました。お弁当も500円と(ご飯もお味噌汁もついて)安価なものには驚きました。また、各階の通路は、大きな窓の光を取り込んで明るく、お母さんが幼児が遊ばせるスペースやテーブルや椅子が何組か置かれてあり、ゆったりと利用されていました。初めに、市民に優しい建物だなあと感じました。

刈谷市では、もう20年前から、無料で「公共施設連絡バス」が運行しています。視察に入り、都市交通課の方から説明を受けました。いただいた資料をみますと、利用者の数は年々増加し、刈谷市は、現在15万の人口の都市ですが、昨年度は年間71万の人が利用しています。また、路線を何度も改正し、現在では4路線から6路線に広がっています。

その後、実際に市役所からバスに乗ってみました。乗車の際に2段の階段がなく、バリアフリー化がし

てありました。55人乗りのバスですがバスの前面はフラットで、座席の数も少なく、後ろから込んだ座席になっていて、車椅子の人も容易に動くことができるようにしてありました。そして、初めに白い切符も取らなくていいし、降りる時にもお財布から硬貨を捜して払わなくてよいという経験をしました。

先の鈴鹿市長さんとの懇談では、末松則子市長は、「鈴鹿市の公共交通のことは考えなくてはいけないと思っている。一度、バスを走らせている近隣の玉城町にも行こうと思っている。」とおっしゃいました。高齢化が進んでいっている近年、市民の足の確保は必須の課題です。早く鈴鹿市にも誰でもが行きたいと思う所に行ける無料のバスが走るように願います。(萩森美知子)



刈谷市を走る無料バス